

ほっとCommunication

2017年10月発行
第76号

発行 後援会
印南 宏
発行責任者 印南 宏



秋分の日も過ぎ、道ばたの彼岸花が季節の訪れを告げています。自宅玄関の草むらから、虫の音が聞こえてきます。吹き抜ける爽やかな風に誘われて、秋を探索旅に出かけたくありません。皆さま、如何お過ごしでしょうか。

衆議院の解散情報

この「ほっとコミュニケーション」第七十六号の原稿を書こうとしているとき、台風十八号が日本列島を縦断、各地に大きな被害をもたらしました。

また国政では、安倍首相は、九月二十五日の記者会見で、二十八日召集の臨時国会の冒頭で衆議院を解散すると表明。衆議院選挙を十月十日告示、二十二日投票となる見通しです。

伝家の宝刀

衆議院の解散は首相の伝家の宝刀であり、歴代の首相は勝てそうと思ったときに、解散権を行使してきました。それは分かるのですが、先月八月三日に「結果本位の仕事人内閣」と胸を張って内閣改造を行ったばかりです。解散の理由を、少子高齢化と北朝鮮情勢を「国難」として、「国民の信任なくして大改革、毅然とした外交は進められない」というものでした。二〇一九年十月に予定する消費税増十%引き上げの増税分の使途変更は、これまで国会の場でもほとんど論議されておらず、突然の解散になんの根拠になるようなものはないと、私は思っています。

自己保身での解散

我が国のはるか上空を六度目のミサイルが飛んでいくなど、相変わらず核やミサイルの挑発などによる、北朝鮮情勢の緊迫も続いています。そして、首相自身が渦中にある加計学園や森友学園問題は未だ、何も解明されておらず、六月通常

国会の閉会後、これから「真摯に説明する」と約束していたことが、全く手つかずに残った状態のままとなっています。

もし、これらの課題を全て避けて、解散に持ち込むということは、よほど疑惑を隠して、この場から逃げ出したい、自己保身での解散と思われるのでは、散々か。これでは、政治に対する不信感が増えるだけだと思えます。あまりに国民を軽視していると、後で大きなしっぺ返しがあるものと私は思っています。

今、日本の政治で一番、必要なことは「信頼」だと思っています。国のトップが説明責任をしっかりと果たす。「謙虚に、丁寧に」、国民の疑問に対して、一つひとつ、首相が説明をする真摯な姿勢、これをしなければ、いつまでたっても政治に信頼は得られないと私は思っています。

『政治に無関心でも生きて行くことはできるが、政治に無関係では生きていくことはできない』だから『政治への自らの参画が必要と なっている』

◆九月定例市議会◆

八月二十八日(月)～
九月二十日(水)二十四日間

《主な議案》

九月定例市議会は保育士の処遇改善に向けた補助事業などで、一億四千四百万円を追加する平成二十九年一度一般会計補正予算案や、二十八年度的一般会計決算認定、我孫子駅前土地区画整理事業に伴う字区域の名称変更など十八議案



印南 宏 現在の主な役職

我孫子市議会 議員 副委員長
我孫子市議会 常任委員会 副委員長
我孫子市議会 特別委員会 副委員長
我孫子市議会 都市計画審議会 委員
我孫子市議会 「あひこ未来」代表
成田線を利用する議員の会 副会長
連合千葉 千葉議員団会議 前幹事長
電機連合 千葉議員団会議 ブロック幹事
その他
我孫子市サッカー協会 顧問
我孫子市ソフトボール協会 顧問 など

○地域包括支援センターにおける一部基準の改正（主任介護支援専門員の定義を改める）

○特定教育・保育施設運営に関する基準の一部改正（受給資格等の確認手続きの見直し等）

○地区計画区域内の建築物の制限に関する条例（我孫子新田地区の都市計画決定）

○一般会計補正予算（一億四千四百億円を追加し、二十九年一般会計総額を三百七十八億二千四百万円）

○二十八年度一般会計決算、特別会計各決算、水道事業決算の認定

《請願》

○国における平成三十年度教育予算拡充に関する意見書：採択

○義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書：採択

○移植ツーリズムを禁止する法律等の整備に関する意見書：継続審査

《主な争点》

専決処分分の市議会への報告漏れ、三年分、十七件（平成二十七年（二十九年）が発覚し、市長が議会に陳謝する不始末が発生。専決処分とは、市長が議会

の議決を経ずに条例や予算などを決めることで、議会への事後報告が必要となる事項、例えば、市道路の陥没などにより、市がケガをした歩行者らに損害賠償金などを支払うなど、専決処分で支払い等を行ったものは、必ず議会へ議決報告することが必要となる。報告を怠った職員らを市は懲戒（訓告）処分とした。

その他、日本女子オーブンゴルフ大会で我孫子市をPRしようと、市と関係団体で組織する「あびこPRプロジェクト実行委員会」は我孫子を代表する有名人で同倶楽部にゆかりのある青木功プロゴルファーに協力を要請。「ふるさと大使」第一号になってもらうことが確定した。（全議案可決承認）

9月議会 印南宏の個人質問

1. ふるさと納税 現況と課題

- ・ふるさと納税額の推移
- ・寄付額の向上施策
- ・選べる寄附金の使い道
- ・国への制度変更要望
- ・今後の戦略

2. 鳥の博物館 現況と課題

- ・設置目的と今日までの評価
 - ・目指すべき来館者数
 - ・指定管理者制度検討会
 - ・第8期計画の実現
 - ・具体的な改善要望
- ハード面の増床、歳入増の工夫、調査活動の情報発信

宏はこう考える

個人質問から抜粋

「ふるさと納税」

「ふるさと納税」は、納税と名前が付くものの、現実には「寄付行為」であり、制度が生まれ、本来の趣旨は、「自分の生まれ育ったふるさとに寄付をすることによって地元貢献すること」ができる、善意の寄付制度」が、この制度の出発点であったと理解をしています。

しかし、本来の趣旨とは裏腹に、各自自治体が発行するふるさと納税額を増やそうと、寄付者に贈る返礼品競争が過度にエスカレートし、併せて寄付をすることによって、家族構成や年収によって、一定の制限はありますが、原則二千万を差し引いた額だけ、住民税や所得税が軽くなる仕組みになっています。

我孫子市へのふるさと納税額を増やしていくためには「選べる寄附金の使い道」において他市と差別化をする必要があると考えています。今後返礼品による見返りよりも、地域のために使えるお金の使い道をアピールすることが、より重要となると考えるからです。現在、当市は十五の事業名で使い道等の選別をしています。そこに「動物愛護事業」を加えてほしいのです。

我孫子市で平成二十九年度から実施されている、飼主のいない猫の「不妊去勢手術補助金」は保護活動をしている市民が待望していたことであり、高く評価されています。今後、この制度を進化させていくためにも、ふるさと納税の選べる寄附金の使い道、その一つとして取り上げてほしいと思っています。

そして、都市と地方の税収格差を縮めるためには、ふるさと納税だけでは力不足、限界があると考えます。地方向けの補助金等を見直し、財源を地域間の偏在が小さい税源を国から地方に移す改革等も必要となっています。市長は市長会などを通じてふるさと納税、制度を改善することの必要性を是非、力強く訴えてもらいたいと思います。

※二十八年度、我孫子市ふるさと納税金額は、市へ納税された寄付額八百五十万円に対し、他の自治体へ寄付したことによる個人住民税影響額六千八百万円、二十九年度は一億円を超える影響額が出る予定です。



鳥の博物館

我孫子市鳥の博物館は、平成二年五月二十二日に手賀沼のほとりに設置されました。そのきっかけは、我孫子市のシンボルとなる手賀沼の水質汚濁にあります。昭和四十年代の高度経済成長時代、手賀沼の水質の汚濁が著しく進み、昭和四十九年から二十七年間、全国の湖沼で汚濁度ワーストワンという負の記録を残してしまいました。水質浄化を図るためには、市民一人ひとりが地域の自然に関心を持ち、保全の意識を高揚させることが必要と市は考え、環境保全活動で実績のある「山科鳥類研究所」当時、渋谷区南平台にあった施設を、我孫子市に昭和五十九年に誘致をしました。誘致をした効果をさらに高めるために、平成二年に市民がいつでも気軽に鳥をはじめとする身近な自然情報を得ることができるよう、市立の鳥の博物館、日本全国で唯一の鳥専門の単科博物館を設立したのです。

その鳥の博物館も今年で二十七年、四半世紀を過ぎ、開館当初から一貫して「人と鳥との共存」をテーマに市民の皆さんから愛され、環境学習活動が続けられました。しかし、これまで全面的な展示のリニューアルは

一度も行っていない。第八期実施計画では、平成十九年度に資料調査、平成三十二年度は展示リニューアル基本計画の策定、展示リニューアルの検討委員会の開催等が予定されていますが、鳥の博物館のリニューアル計画は確実に実施していかねばならない、大切な事業の一つだと考えています。

印南が代表を務める会派
「あびこ未来」代表質問要旨

- 教育・行政
 - ・いじめ問題・児童虐待・認知症対策
- 働き方改革
 - ・地方公務員法及び地方自治法の改正
 - ・教職員の長時間労働問題
- 商工行政
 - ・産業拠点調査

◆宏のうが気になる!◆

我孫子市役所職員
「働き方改革の行方」

平成二十九年五月に改正地方公務員法及び地方自治法の一部が可決成立、平成三十二年四月に施行されることになりました。この法律では臨時・非常勤職員等地方自治体で働く非正規公務員の採用・任用の根拠を明確に

し、さらには期末手当（民間でいう賞与）を非正規職員に支払うなどの改善を行う法改正です。これまで「臨時職員」「特別職非常勤職員」「一般職非常勤職員」というように、ばらばらであったものを改正地方公務員法では「会計年度任用職員」という新たな採用類型を設けて、この形に全自治体で統一することになりました。

地方自治法の改正では、会計年度任用職員に支払う給与、手当などを整理、規定をしていきます。この改正によって地方自治体で働く職員の三人に一人、昨年、二十八年度で六十四万人（総務省調査）までになった非正規公務員の処遇を改善し、「同一労働同一賃金」の原則に基づき、正規・非正規間の格差を是正することが主な目的とされています。（二〇〇五年～二〇一六年全国の自治体非正規職員数は四割も増加）

特に我孫子市は市職員の非正規比率が高い自治体として、全国五位と異常に高く、非正規の臨時・非常勤職員数が、全体の約五十五・二%となっています。今後、地方公務員法の二十二条の二で新設された「会計年度任用職員」が、本当に政府の狙いとした格差是正につながっていくのか、法改正の目的である官

製ワーキングプアの解消になつてくれるのか、今後の法律施行までにどのような制度の運用、待遇の改善を行っていくのか、現場である自治体は慎重に作業を進めて行く必要があります。

◆九月議会トピックス◆

我孫子市は今日まで、市の単独費で私立保育園に勤務する保育士に、勤務年数に応じて、給与改善費を支給していました。（勤続四年未満、一万五千九百円／月、勤続十年以上、二万五千円／月額の四段階）

今議会でも千葉県からの私立保育園運営補助事業が可決され、市内私立保育園に勤務する保育士、非常勤保育士、三百四十名を対象に、今年十月以降、毎月二万円をプラスして給与改定、処遇の改善が図られるようになりました。

* 詳細は議会だより、市議会HPの録画等、いつでもみることができます *

<http://www.discussvision.net/abikosi/2.html>



我孫子雑感

◆私の住む平和台自治会は、今年も総合防災訓練を実施した。訓練は、平成二十九年九月十日(日)午前八時五十五分、震度六強の地震が発生、大規模な災害が、布佐平和台地域を襲い、甚大な被害を受けたと想定して行われた。私も防災対策本部の一員として参加。(日常は防災スタッフとして活動)主な訓練として①地震発生時の初動対応の確認、②各班の安否確認、③各地区支部の本部報告と役割、④防災機材の取り扱い方、⑤防災対策本部の運営訓練などが行われた。平和台自治会は東西に細長く、約千三百五十世帯で構成された我孫子市で最も大きい自治会である。その中に防災倉庫を各公園に設置、全九支部体制で防災組織を確立している。各支部は日頃から自治会員の生命を如何に守るか、自助共助の一連の行動を互いに確認、一次避難所(公園)での防災機材の取り扱い方等を学ぶなど、防災活動を行っている。私の所属した防災対策本部では、各支部から入る被害状態をいち早く把握し、適切に各支部に本部としての的確な指示ができるか、否か等、

模擬訓練(ケーススタディ)を中心に行った。参加した理事、防災委員、防災スタッフの皆さんは、各ケースの防災対応について、皆で意見を出しあい、確認し合いながら、真剣に訓練を行った。当日の自治会員の参加者は約五百人。参加者には全員、非常食が配布された。大災害が来ないことを願いながらも、いつかはやってくる有事に日頃からの訓練の重要性を再認識させられた一日だった。



平和台自治会
総合防災訓練の様子

◆Jアラートとは一体何だろう。内閣官房が察知したミサイル攻撃情報などを地方自治体に伝達して警報を鳴らせるということだが、この情報で本当に私たちは「国民を守るのだろうか。政府は「正確に把握していた」と言っているが、過去二回のJアラートは広範囲な自治体(12道県)に発令をしている。攻撃に対して、迎撃システムが働く」と聞いてはいるが、本当に迎撃

できるのか。この警報が作動後、数分後には、すでにミサイルは日本のはるか「上空」を通過している。「頭をかばい近くの建物」、「地下に逃げ込め」と言われても、どうしようもない。地上から五百五十キロの大気圏外を飛行、四百キロの上空に浮かんでいる人工衛星よりも、はるか上を飛行するミサイル。「我が国にミサイルを発射した」と総理大臣が発言してしまうことが、「恐怖」になっていないのか。外交のリスクを高めていることにならないか。真に国民を守る方法は恐怖をおおるだけでなく、本気で平和外交を命がけで行うことが第一の道であると思うのだが。

◆倉本聰「やすらぎの郷」をご存知だろうか。NHK朝ドラの「ひよっこ」と同じく、十五分番組である。この「やすらぎの郷」はお昼十二時半から民放で放送している番組であるが、毎回の放送を楽しみにしている。脚本家の倉本聰さんが描くストーリーが面白い。過去の蒸し返しやテレビ業界のタブーや数々の風刺を入れて、私をドラマに引き込んでくれる。出演者の一人である野際陽子さんの最後を飾ったドラマとなった。ドラマの拠点はお金持ちしか入れない

高級老人ホーム、まさに超高齢化社会を生きる人間ドラマとなっている。老人になっても、好奇心を絶やすことなく、常に明るく、生きることの大切さ。悲しいことも起こるが、あくまでも笑える作品に努めている倉本さんは素晴らしい。「北の国から」のイメージを塗り替えている。今年九月末でドラマは終わってしまうが、昼の十五分ドラマの面白さに脱帽。



宏

印南 宏 後援会

〒270-1108

我孫子市布佐平和台 7-1-18

TEL: 7189-1598



E-MAIL: hiroinabiko@kca.biglobe.ne.jp

ブログ: http://hiroshi4649.at.webry.info/

HP http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/